

## 第2学年 社会科学習指導案

日時 平成19年10月12日(金)公開授業2  
生徒 上野中学校 2年A組  
男子18名 女子16名 計34名  
指導者 教諭 千田 淳

### 1 単元名

世界と日本の自然環境

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、自然環境について世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴をとらえる活動を通して、わが国の国土の特徴を大観させることを目的としている。

自然環境の中でも地形と気候を取り上げ、地形と気候について、世界的視野から見た日本の地域的特色の大体をとらえ、日本全体の視野から見た国内諸地域の特徴を様々な資料をもとに理解させ、また、地域的特色を明らかにする視点や方法も身につけさせる。

更には自然災害についても発生の要因や防災対策について理解を深めさせ、日本の自然環境の特徴を大観させる。

#### (2) 生徒観

本学級の生徒は、社会に対する興味関心は比較的高く、社会的事象について調べる活動などを意欲的に取り組む生徒が多い。

社会的事象に関わる知識を理解することや、簡単な資料の読み取りにも積極的に取り組むが、それをもとに根拠をみつけ、自分のことばでまとめることが苦手な生徒が多く、考える視点を与えたり、まとめる方法を教えるなどの手だてが必要な面がある。

本単元に関わって、生徒は、小学校第5学年において「国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」「国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働き」について、地図やその他の資料を活用して調べ、考える活動を経験してきている。

また、東西に北上高地と奥羽山脈をあおぎ、自然が多く残る北上盆地に暮らす生徒達は日本が四季の変化に富んだ特色を持つことなどは、経験知・生活知として理解していると考えられる。

しかしながら、それは狭い範囲での知識であり、本単元でねらう「世界的視野から見た日本の地域的特色」や「日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴」を地形や気候、自然災害といった面からとらえるところまでは高まっていない生徒が多い。

### (3) 指導観

「個に応じた手だて」について

本単元では、自然環境についてさまざまな資料の読み取りや、分布図の作成などから考察し、自分なりのことばでまとめる活動が多く取り入れられる。

そこで以下のような手だてを講じながら学習を進めていく。

- ・導入時に、本時に関わる既習内容の確認
- ・自分の考えを深めるためのグループ学習
- ・考える視点や、まとめる手順などを示した「補助プリント」の活用
- ・生徒の反省や感想をもとに理解の度合いを把握

「評価の生かし方」について

評価については、授業中の観察による評価、学習シートによる評価、自己評価カードによる評価、小テストによる評価を取り入れながら学習を進めていく。

授業中の観察による評価によって、学習の手順が身についているか、考える視点が明確であるかなどを把握し、個別にアドバイスが必要な生徒への対応を行う。

学習シートによる評価や自己評価カードによる評価では、1時間単位での生徒の理解の度合いを把握し、次時の導入に生かしたり、次時に個別指導を予定する。

小テストによる評価によって、学習内容の定着の度合いを確認し適宜補充を行う。

### 3 単元の目標

- ・日本の地形や気候は、世界各国と比較して複雑であり、四季の変化など地域差があることに関心を持ち、災害による被害を少なくするための方策を、意欲的に考えることができる。(関心・意欲・態度)
- ・暮らしに影響を与える地震や洪水などの自然災害の原因を多面的に学習し、災害を防止するための努力や工夫について考えることができる。(思考・判断)
- ・地球儀、地図、主題図、統計資料などから、世界と日本の地形や気候区の分布とその成り立ちを読み取ったり、つかんだ特色を白地図や雨温図などにまとめたりすることができる。(技能・表現)
- ・世界的に見て日本の地形や気候はどのような特色があるか説明できるとともに、国内を見て複雑な地形や気候の分布を地図上で指摘し、暮らしに影響を与えるさまざまな自然災害があることを理解できる。(知識・理解)

### 4 単元の指導計画(全8時間)

- 第1時 世界の地形のようす
- 第2時 日本の山地と海岸
- 第3時 日本の川と平野
- 第4時 世界の気候のようす
- 第5時 日本が属する温帯の特色(1)
- 第6時 日本が属する温帯の特色(2)
- 第7時 日本の気候の地域差を見よう(本時)
- 第8時 自然災害とその対策

## 5 題材の評価規準

単元・題材名	世界と日本の自然環境「日本の気候の地域差を見よう」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨温図や分布図等を通して、日本の気候は、南と北、日本海側と太平洋側など、位置や地形との関係で気候区分ができることに着目する。</li> <li>・気候区分を行い、それぞれの気候の特色を考察することを通して、日本の気候が変化に富んでいることに気づく。</li> </ul>
主な学習活動	資料をもとに日本の気候を区分し、その地域ごとの気候の特色をまとめる。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの雨温図が日本のどの地域の特色を表すのか、指摘できる。 (技能・表現)</li> <li>・日本の気候区分の特色を、さまざまな資料をもとに比較し、その特色の根拠を考察している。(思考・判断)</li> </ul>
評価の方法	学習シートおよび自己評価カード

## 6 本時の指導

### (1) 目標

さまざまな資料をもとに日本の気候のを区分し、その地域ごとの気候の特色をまとめることができる。

### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的事象への 関心・意欲・態度	積極的に資料を活用し、同じ日本でも地域によって違いがあることについて意欲的に考察しながら学習することができる。	同じ日本でも地域によって違いがあることを知り他の人の意見を参考にしながら学習することができる。	同じ日本でも地域によって違いがあることに気づかせ、必要な補助を与えながら学習に取り組みさせる。
社会的な 思考・判断	地域による日本の気候の特色を、雨温図や既存の知識から根拠を推測・考察し、自分のことばでまとめることができる。	地域による日本の気候の特色を、雨温図や補助プリントから根拠を考察しまとめることができる。	地域による日本の気候の特色を、補助プリントや個別指導、グループ学習を通してまとめさせる。

(3) 展開

	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価・手だて
導 入 10 分	1 既習内容の確認	・班毎に既習内容確認カードで確認する。	・同じ3月なのに気候的な様子違うことに気づかせ、課題意識をもたせる。
	2 日本国内の気候の多様性に気づかせ学習課題を把握させる。	・3月の北海道・東京・沖縄の写真を見ながら、いつ頃の写真を考える。	
地域による日本の気候の特色を考えよう。			
展 開 30 分	3 日本の気候が冷帯・温帯・亜熱帯に区分されることを理解させる。	・導入で見た写真と雨温図の特徴から3つの気候に区分する。 ＜気候区分の視点＞ 緯度・気温・降水量・風 地形・海拔高度	・気候区分の視点として既習事項を確認しながら、はじめに緯度や雨温図の特徴から3つの気候に分類させる。
	4 日本の中央部の気候の特色を考え、まとめさせる。	・日本の中央部4地域の雨温図を一斉に複数枚提示し、その特徴をとらえながら、班毎に4つに分類する。	・考える根拠となる季節風の影響について確認してから作業に取り組みさせる。 ・4つの地域に区分される境界の地形にも着目させる。
	5 地域差を生み出す要因について理解させる。	・4つの地域それぞれの気候の特色をまとめる。  ・各自でまとめた4つの地域の気候の特色を、班毎に話し合い、発表する。  ・気候の地域差を生み出す要因を地形と季節風の関係から理解する。	雨温図や季節風・地形を根拠にし、各地域の気候の特色をまとめることができる。 <b>Cの生徒への手だて</b> 補助プリント配布後、つまりきに応じてアドバイスを与えまとめさせる。 <b>Bの生徒への手だて</b> 補助プリントを配布し、それをもとに特色をまとめさせる。 <b>Aの生徒への手だて</b> 更に都市の月別平気気温と月別降水量のデータを与え、雨温図を作成してどの地域のものを判別させる。
終 末 10 分	6 雨温図から気候の特徴を読み取り、国内の気候区に位置付けさせる。	・各自で雨温図の特徴を把握し、気候区に分類する。	・机間巡視をしながら、理解が不足している生徒への指導をおこなう。
	7 学習の振り返り	・本時の学習の感想を書き、学習を振り返る。	・学習課題に対して、わかった事、わからなかった事を整理させ、感想に記入させる。
	8 次時の連絡		